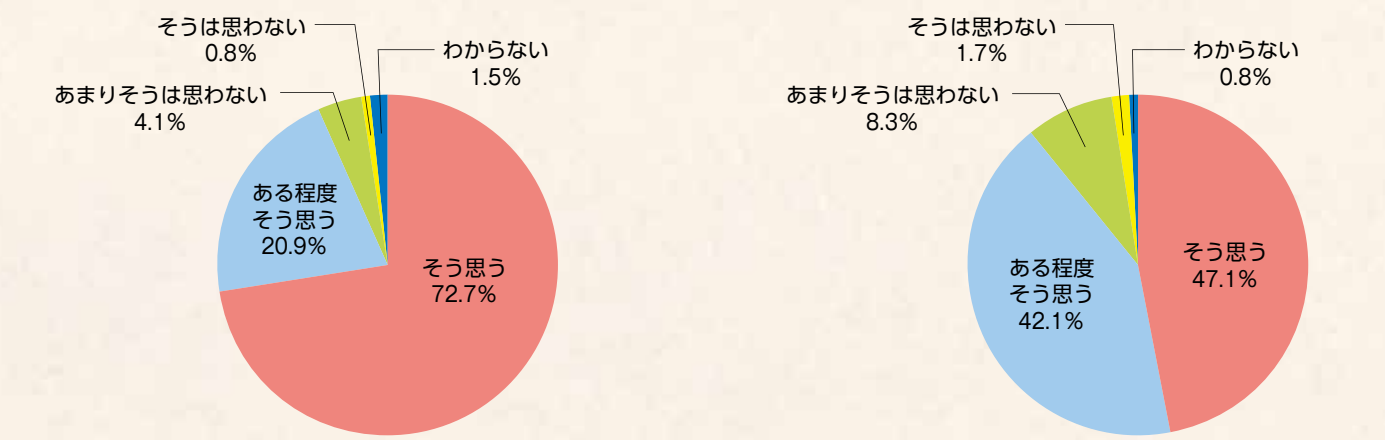


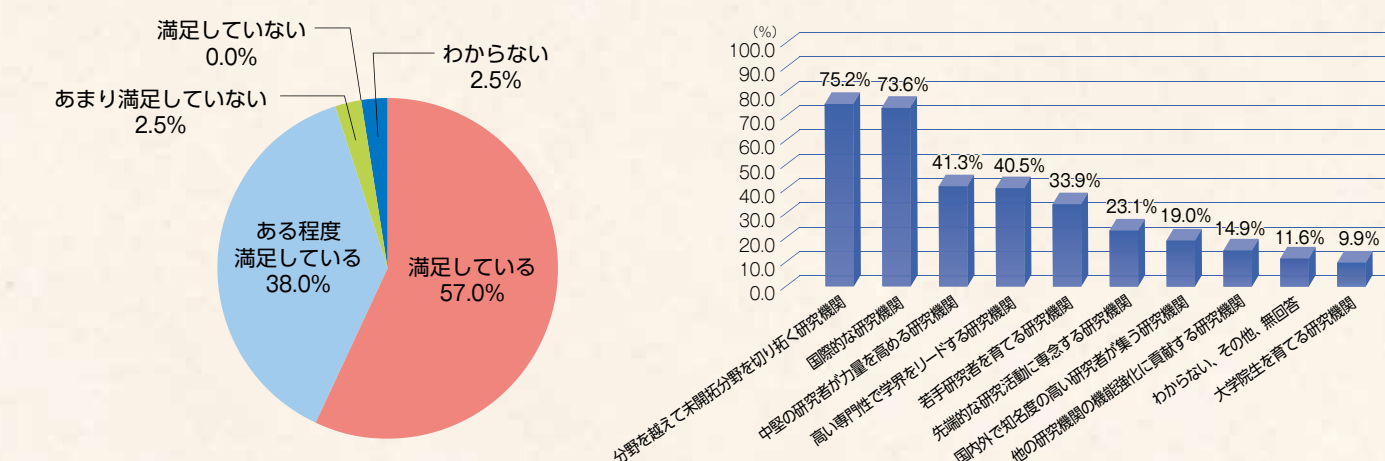
平成27年度共同研究員アンケート報告書

**調査概要**  
 日文研では、その主たる活動である共同研究の現状と共同研究員の意見を把握し、組織運営の改善のための資料とするためにアンケートを実施した。  
 調査対象者：2015(平成27)年度の国内外共同研究員 301名(名誉教授、元専任・特任教員、送付物受取辞退者を除く)  
 調査方法：質問紙を郵送し、返信用封筒で回答(無記名)  
 調査期間：2016(平成28)年7月22日(金)～8月22日(月)  
 回答数：121名(回答率40.2%)

1 所属した共同研究会は学際的だと思いますか？ 2 所属した共同研究会は国際的だと思いますか？



3 所属した共同研究会に満足していますか？ 4 日文研はどのような研究機関であるのがよいと思いますか？



学際性・国際性を問う質問1,2のいずれも、「そう思う」「ある程度そう思う」を合わせると約90%を占めています。また質問3についても、「満足している」「ある程度満足している」を合わせると90%を超えていることから、日文研が標榜する学際性・国際性は、共同研究会において概ね達成しており、全体として満足度は極めて高いと言えます。そして質問4からは、専門性でリードするよりも学際的・国際的な高等研究機関型の組織であることを望んでおり、年齢層では中堅・若手を重視すべきと考えていることがわかります。



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構  
 国際日本文化研究センター  
 〒610-1192  
 京都市西京区御陵大枝山町3丁目2番地  
 (代) Tel: (075) 335-2222  
<http://www.nichibun.ac.jp/>

IRくん  
 日文研に関する情報の調査及び分析を実施するインスティテュショナル・リサーチャー(IR)のキャラクター。

IR-Report 特集号

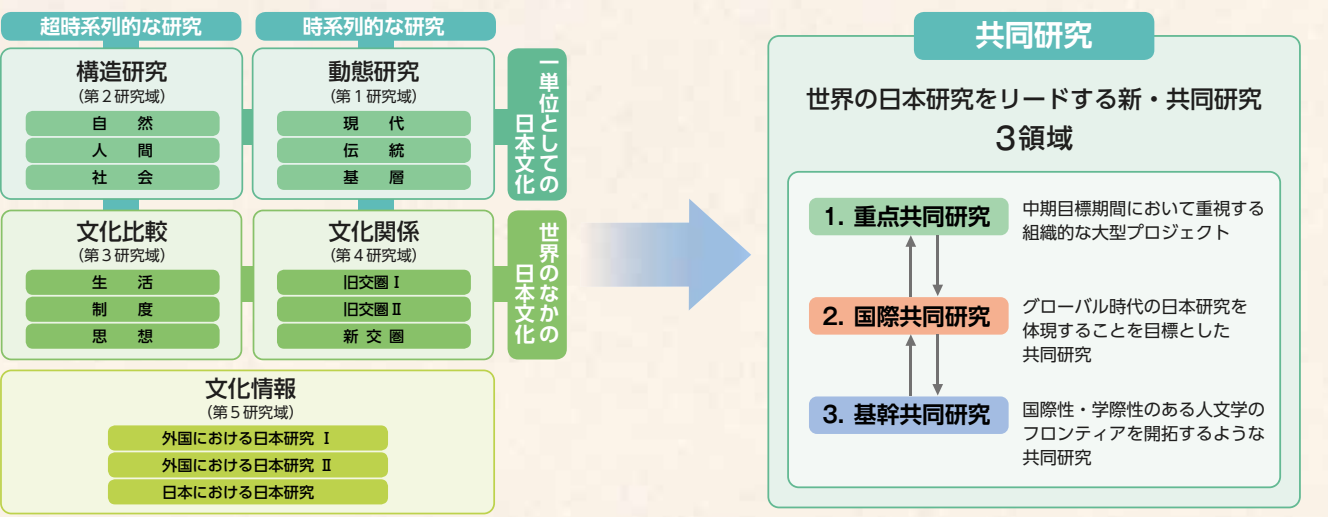


「日文研の共同研究」

日文研の共同研究は、単なる研究成果の交換にとどまるものではなく、多様な専門分野と知的伝統に立脚する研究者たちが研究過程を共有し合うことによって生みだされる国際日本研究をめざしています。これまで日文研が三十年におよび積み上げてきた共同研究の成果を紹介いたします。

共同研究の

日文研の共同研究について



共同研究は、日文研が最も重視している研究活動です。1987年の創設以来、国際性・学際性を総合する視点から「5域3軸」(図1)という枠組みを掲げて共同研究を組織し、国内外の日本研究者コミュニティの結節点の機能を果たしてきました。そして2017年4月、創立30周年を前に、昨今の日本研究のグローバル化等の現状に鑑みて「3領域」(図2)という枠組みへと再編をおこないました。具体的には、①日文研が中期目標期間において重視する組織的な大型プロジェクトを担い、先端的な学際動向に機動的に対応する「重点共同研究」、②研究対象地域を日本に限定せず、広い観点からの比較や文化の相互交流や歴史の変容をも対象とする、国際的研究指向の強い「国際共同研究」、③国際性・学際性という創立以来の強みを活かしつつ、人文学のフロンティアを開拓するような「基幹共同研究」の3つです。共同研究の研究代表者には、日文研の専任研究者だけでなく、研究課題自由設定公募を経て選考された国内外の研究者が就いています。共同研究の成果をまとめた商業出版物の書誌情報や国際研究会の報告書は、日文研のウェブサイトで紹介しています。



30年間における共同研究課題169を解析し、頻度順で可視化してみました(図1)。「頻度=文字の大きさ」です。それを法人化前後に分けてみると(図2・図3)、「日本人」がなくなり、「東アジア」が大きくなっているのが分かります。

30年間の共同研究課題169とその関連データを内側に掲載しています。



Voyant Tools <https://voyant-tools.org/>

